

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 天文台にもいた野鳥「しろはら」!

アーカイブ室新聞は歴史的に貴重な観測器械などに限らず、国立天文台構内に咲く、あるいは生息する貴重な花、貴重な生き物についても触れておきたい。今回は元職員で「鳥博士」の異名をもつ畑中至純氏から寄せられた情報である。残念ながら屍骸を見つけたので葬ってやりたいと見せてくれた。私にとっては珍しい鳥だが、野鳥に詳しい方にとってはごく平凡な鳥かもしれないが、紹介しておきたい。「しろはら」(写真1)はツグミの仲間で冬鳥、平地から山地の林、樹木の多い公園などにいる。確かに天文台構内はそのとおりだ。越冬中は1羽で生活し、秋の渡りの頃には群れる。跳ね歩きながら落ち葉の下や土中からミミズ類や昆虫類を採食し、秋から冬にかけては木の実も食べるそうだから、これも天文台に生息する理由としてはうなずける。雌雄ほぼ同色。頭部から喉が灰褐色、後頸からの上面は淡い茶褐色。体下面は淡い枯草色で、腹中央は白いので「しろはら」と呼ばれるようだ。鳴声「ツイー」「ジュジジ」とある。この鳥はツグミなどに比べて、暗いところが好きなようで林の中でじっとしているとなかなか見つけられないようだ。



写真1 しろはら

畑中さんは天文台の中を歩いていて、何かの事情で死んだ「しろはら」を見つけ、葬ってやろうとシャベルを用意しておられた。アーカイブ室新聞でこの鳥を紹介してくれる事を期待しておられたようなので、こうして記事にしている。この屍骸をアーカイブスに加えることはしないが、その特徴的な姿の写真は、保存しておこうと思う。写真2が全体像、尻尾を開くと両端の羽が白く(写真3)、おなかが白い(写真4)のでその名が付いた

ようである。写真5は頭部。



写真2 しろはらの全体像



写真3 両側端が白い尾羽



写真4 白い腹部



写真5 かわいい頭部